



水文ショートインタビューみずぶん

これは機関誌『水の文化』の特集取材 ものです。記事では語りつくせなかっ でお会いした方々に「水への想い」や 今号から新たに掲載する「水を想う」 たお話をどうぞご覧ください。 水にまつわる想い出」をお聞きする

水を見ると今もわくわくする

りして遊んでいました。 頃から谷川で泳いだり、サワガニを捕まえた の垂井町という水の豊かな 地で生まれました。小さい

くらいです。 の季節はバスケットボール部に所属していた しました。中学校では夏は水泳部、それ以外 ル開放は1年生から6年生まで休まずに参加 ご存じのように岐阜は海なし県ですから、 泳ぐのが大好きで、小学校の夏休みのプー

えています。 たくさん水があるんだ!」と驚いたことを覚 初めて海を見たのは小学校中学年。「こんなに

見ると今でもわくわくするのです。 づける遠泳なども担当しましたが、海や水を 大学の授業では海へ潜ったり2時間泳ぎつ

親と釣りに行って涸沼川に 5歳のときに父

ので「待っていたら1回浮 の出身で水に親しんでいた っかけです。父親は那珂湊 落っこちて溺れたことがき



心落ち着く車窓からの水景

のか、水面が波打っているんです

す。川底に切り込みを入れている 線と並行して流れている神田川で していました。

都内で好きな場所は、都電荒川

部、高校では水上スキー部に所属 とはありません。中学校では水泳 たので、泳ぐのを怖いと思ったこ

か心がスッと落ち着きます。 ね。車窓から眺めていると、なぜ

水府流水術「浮身36体」の一つ「うたた寝」

p24-27 樫村幸治さん

日本泳法の一流派「水府流水術」を訪ねて

もはっきり見えました。

最初から水面に浮かぶことができ それからずっと海が好きです。 き通っていて、魚が泳いでいる姿 ときよりも水が多く、水底まで透 ると潮が満ちていて前日に泳いだ とても美しかったのです。朝起き

海水浴に行った ときに見た海が



ウナギを捕まえてお小遣いに

獲ったりしてね。 浸かっていました。釣りをしたりエビを は暑いので、涼しさを求めてずっと川に

行きました。 き、翌朝の5時半とか6時にそれを引き上げに ると先輩に聞いたウナギの通り道に仕掛けに行 ミズを掘りに行って竹の筒に入れて、夕方にな というウナギ漁では竹の筒を使うんですが、ミ みになる前、川は漁の場所でした。「コロバシ」 四万十川では一年中遊んでいましたが、夏休

た。それでお菓子やBB弾を買ったりしました。 らうことはなかったので、いい小遣い稼ぎでし お金がもらえたのです。お正月以外に現金をも 獲れたウナギを買い取りのお兄さんに渡すと

> ちが勝ったんですね。 たが、釣りに行きたい気持 を使うくらい水は苦手でし い」と。シャンプーハット いと言うと「じゃあスイミ たいか」と聞かれ、行きた くれました。 ングスクールに行きなさ 父親に「また釣りに行き

を続けるのは大事なことな んだよ」と子どもたちによ るようになりました。「何か 今は人よりも多少は泳げ

海辺の暮らし

p16 野口博子さん

漁師さんはみんな泳げるの

南房総の人びとに聞いた、

育った白浜町(現・南房総市)でサザエやトコブシ が獲れるのは5月からです。今と違って深い場所 じゃなくてもサザエはたくさ

一人では潜りに行かなかった

んいたんですよ。

石を起こして動きの鈍いドンコを

ガエビを捕まえる網 す。エビ玉とはテナ 「エビ玉」で捕まえま

で、糸で編んだ直径

冬は寒さに震えながら川に入って、

イ、冬はドンコです。

やウナギやナマズ、秋はウグイとコ わります。春はフナ、夏は川でアユ そうして釣りを覚えていきました。 の支流でハヤンボ(カワムツ)釣り。 って池で釣りをして、次に四万十川 一大 か た。竹を切って竿をつく

季節によって釣る魚、獲る魚も変

と挟んでおいて、すぐに外れるようにして泳ぎます。 る網を結びつけた樽を持って行きました。命綱は自分の腰にちょっ 潜るときは命綱と貝を入れ

すので、絶対に一人では潜りに行きませんでした。 たら自由に泳げなくて溺れてしまうから。本職(プロ)の海女(海土)命綱を体にしっかり結びつけないのは、もしも綱が岩に絡みつい でも亡くなる人は時々いるのです。海は楽しいけれど危険もありま

ました。白身でおいしいんですよ。 できるようにし、煮つけなどで食べ 火でじっくり焼いて乾燥させて保存 15mくらいの玉網です。ドンコは遠

川で溺れかけて水泳の道へ



見ていて、私が浮いたとき

いてくるだろう」と様子を

にすかさず引っ張り上げて

水文(みずぶん)ショートインタビュ